

第34回マリンボールカップ男子 Bゾーン決勝 7月28日(日)

六ッ川ミニバスケットボールクラブ(横浜南部) 42 vs 32 榎が丘ファイターズ(横浜北部)



- 1 Q 両チームともマンツーマンでスタートした1 Q。出だしから六ッ川# 4のドライブ、榎が丘# 4のミドルシュートと両キャプテンが果敢に攻め続けた。まず流れを掴んだのは榎が丘。# 9がリバウンドを頑張り、ゴール下で確実にシュートを決めた。その後、六ッ川# 8のリバウンドシュート、ドライブからのバスカンで追いつけたが、榎が丘# 4がブザービートを決め、13-14。榎が丘リードで1 Q終了。
- 2 Q どちらも点が入らない時間が続いたが、両チーム# 5の積極的な攻めで点が動き始めた。六ッ川# 5がドライブからのバスカン。榎が丘# 5が連続ミドルシュートを決める。榎が丘のオールコートディフェンスにつかまり、ターンオーバーが続いた六ッ川は、苦しい展開からも# 10のゴール下シュートで同点に追いつく。残り3分で榎が丘のタイムアウト。その後、粘り強いディフェンスからチャンスをつくり、# 5のシュートで榎が丘が再びリード。20-24で2 Q終了。
- 3 Q 前半、センター# 8、# 10のリバウンドシュート、# 5のロングシュートで一気に追いつけた六ッ川。一方で榎が丘は積極的にシュートを打つものの、なかなか点に結びつかず苦しい展開が続く。しかし、榎が丘# 9の中距離シュートから流れは変わった。榎が丘のマンツーマンを崩せず、台形を攻めることができない六ッ川は点が止まる。榎が丘# 4のミドルシュート、# 5のロングシュートで26-30。榎が丘のリードで3 Q終了。
- 4 Q 六ッ川はゾーン、榎が丘はマンツーマンで4 Qスタート。# 6のゴール下シュートで良いスタートを切った六ッ川は、# 4のミドルシュート、ドライブで流れを掴んだ。六ッ川のゾーンプレスをパスで崩し、榎が丘# 11がゴール下シュートを決めた。しかし、外からのシュートが決まらず、榎が丘の点が止まった。最後は六ッ川# 8が積極的にドライブで攻め、42-32で六ッ川の勝利となった。